



## ケニア国より良い生活のための 地方水衛生実施能力強化プロジェクト プロジェクトニュース②



### 学校における衛生状況改善を目的とした調査の実施（2025年3月）

本プロジェクトでは、プロジェクト名に含まれている「より良い生活」を実現するため、既存給水施設へのアプローチに留まらず、並行して衛生啓発活動を実施していくことで、プロジェクト成果の波及効果を増大させることも目指しています。プロジェクト初年度（2024年4月～2025年3月）には、12箇所の給水施設の更新並びにアップグレードを実施し、その裨益対象はコミュニティの住民に留まらず、保健施設や学校にも及びます。今後学校を中心に衛生啓発活動を実施していくにあたり、安全な水へのアクセスが実現された小学校7校と中学校1校にて、衛生に関する状況把握を目的とした調査を実施しました。



小学校への給水実現

学校教員からは、本プロジェクトによる介入の結果、生徒たちが井戸や川から水汲みをしなくて済むようになり、飲料や手洗い用の水を十分に確保できるようになったというポジティブな声が挙げられました。一方で、特に衛生施設（トイレ）に課題があることが明らかになりました。ピット式トイレの穴は、穴に落ちるといった恐怖心を植え付けないよう低学年の生徒に配慮して比較的小さめに作られています。そのため、小さな穴に上手に排泄できずフロアの部分に排泄物が付着し、匂いがひどく不潔であり、さらに数校では野外排泄の形跡が見られました。また、トイレの穴に、病原菌の媒介をするハエの侵入や匂いを防ぐための蓋を設置した衛生施設（トイレ）は確認できませんでした。



手洗い設備で手洗いをする生徒（左）



ドアがないトイレと蓋がないトイレ（右）

今回視察した全ての学校では、手洗い設備が設置されており、全校集会等で手洗いの啓発を実施している学校もありました。各教室の前に手洗い設備が設置されている学校や、衛生施設（トイレ）を使用した後、手洗い設備に直行し、手を洗う生徒の姿も多く見られたため、衛生行動は多少なりとも定着していると考えます。しかし、石鹸が常設されている学校はなく、石鹸を使用した正しい手洗いが実施されている学校はありませんでした。今回の調査結果を踏まえ、今後は本プロジェクトで給水状況を改善した学校を対象に、ハード面として衛生施設（トイレ）の改善、ソフト面として水因性疾患の予防方法や石鹸を使用した正しい手洗いに関するワークショップを実施する予定です。生徒たちが学校で学んだ衛生に関する知識を家に持ち帰ることで、コミュニティ全体に対するインパクトの創出を狙います。以上